Heart & Quality
ISO9001
認証取得

TUSA

DIVING MASK, SNORKEL

Tabata
TOKYO LOS ANGELES SYDNEY AMSTERDAM

ダイビングマスク，スノーケル　取扱説明書

OWNER'S INSUTRUCTION MANUAL

第9版

当製品を御使用になる前に、必ずこの使用説明書を読み、取扱方法と危険、警告及び注意事項を完全に理解するようにして下さい。

株式会社タバタ
八潮センター：TUSA事業部
〒340-0813　埼玉県八潮市木曽根768
☎048-996-7133　FAX.048-996-1606
大阪事業部
〒540-0012　大阪府大阪市中央区谷町2-4-5　谷町センタービル
☎06-6949-2661　FAX.06-6949-2671
九州オフィス
〒814-0104　福岡県福岡市城南区別府6-2-32
☎092-847-3681　FAX.092-847-3690
沖縄オフィス
〒904-2222　沖縄県うるま市字上江洲272-6
☎098-974-5402　FAX.098-974-5403

◎お問い合わせ先
TUSAお客様相談室　TEL.0120-989-023

マスク＆スノーケル取説　第9版

※本文の無断転写をかたくお断りします。
©Copyright 2005 Tabata Co.,Ltd. AllRight Are Reserved.

はじめに

この度は、TUSAダイビングマスク、スノーケルをお買上いただきまして、まことに有難うございます。

当製品をご使用になる前に、必ずこの説明書を読み、取扱方法と危険、警告及び注意事項を完全に理解するようにして下さい。また、ご不明な点がある場合には、お買い上げの販売店か、(株)タバタTUSAお客様相談室（TEL.0120-989-023）までお問い合わせ下さい。万一、間違った使い方をした場合には、重大な事故につながる可能性がありますので、十分留意して下さい。

取扱説明書は製品の一部です。必ずいつでも取り出して読める場所に保管し、忘れたり、分からないことが生じた場合には、何度でも読み返すように心がけて下さい。もし、他の人に当製品を貸し出す*ような場合には、必ずこの取扱説明書を添付して下さい。

なお、スクーバダイビングではなく、スキンダイビングやスノーケリングに当社製品をご使用される場合でも、該当する項目は必ずよくお読み下さい。

マスク＆スノーケル取説
1995/6　第1版
1997/1　改訂第2版
1999/1　改訂第3版
2000/2　改訂第4版
2002/7　改訂第5版
2003/2　改訂第6版
2003/12 改訂第7版
2005/2　改訂第8版
2005/8　改訂第9版

目次

安全のために ····· 3
危険事項 ····· 4
警告事項 ····· 5
注意事項 ····· 6
各部の名称 ····· 7
スノーケルのマスクへの取り付け方 ····· 8
ダイビング前のチェック ····· 12
マスクのくもり止め ····· 13
マスクの装着 ····· 14
５段階可変式ストラップアジャスター ····· 15
エントリー時の注意 ····· 15
スクィーズ ····· 16
圧平衡 ····· 16
リバースブロック ····· 18
マスククリアー ····· 19
スノーケルクリアー ····· 21
日常の点検と保管 ····· 23
その他の注意事項 ····· 24
素材品質表示 ····· 25
製品仕様 ····· 26

安全のために

スクーバダイビングは、水中という非日常的な美しき世界に我々を導いてくれる、素晴しいレジャーです。
また、スクーバダイビングに対する正しい知識と、器材の正しい取扱方法を理解していれば、老若男女を問わず誰でも楽しむことができる親しみやすいレジャーでもあります。

しかし、それらの知識と取扱方法を正しく習得してない場合には最悪の場合、重大な事故につながる危険性があることもまた事実です。そして一方で、その可能性は決して高いものでないことも、ダイバーの皆様は十分ご存じのはずです。

日本スクーバ協会*では、全てのダイバーの皆様にダイビングにおける危険性とは何かをよく認識していただくためにも、取扱説明書に共通の「危険」「警告」事項を掲載するとともに、「危険」「警告」「注意」表示のそれぞれの意味を以下のように定義いたしました。

●(株)タバタでは上記の基本的定義に、発生率、危険率等を加味して総合的に「危険」「警告」「注意」表示を掲載しています。

※日本スクーバ協会とは、安全性の向上を第一に、ソフト及びハードの両面からダイビング業界の健全な進歩と発展を考えていくことを目的として日本国内の主要器材メーカー、商社、ウエット（ドライ）スーツメーカー、雑誌社等が集まって構成されている団体です。

危険

「危険」：それを守らないと、最悪の場合重傷事故や死亡事故につながる危険性のある、スクーバダイビングに対する知識とスクーバダイビング器材の取扱方法に関する情報。

警告

「警告」：それを守らないと、間接的に重傷事故や死亡事故につながる可能性、もしくは、重度の物損事故が起こる可能性のある、スクーバダイビングに対する知識とスクーバダイビング器材の取扱方法に関する情報。

注意

「注意」：それを守らないと、軽傷程度の事故につながる可能性、もしくは、軽度の物損事故がおこる可能性のある、スクーバダイビングに対する知識とスクーバダイビング器材の取扱方法に関する情報。

危険

危険事項

●当製品を使用してスクーバダイビングを行うにあたっては、国際的に認知されている潜水指導団体の学科講習及び実技講習を必ず受けてください。安全性の見地ら、各団体の発行するCカード（講習終了認定証）を取得していない方の当製品の使用を禁止いたします[但し、各団体のインストラクター監視下における講習中の使用は、この限りではありません。]
（日本スクーバ協会共通掲載危険事項）

●Cカードを取得している方でも、もし、減圧症やエアーエンボリズム等の発生のメカニズムと、それを防ぐ方法を十分に理解できてない場合は、講習を受けた指導団体のテキストブックを必ず理解できるまで読み返してください。基本的な知識のないままダイビングを行うと、重大な事故につながる可能性があります。

●スクーバダイビングを行う際には絶対に一人で潜らず、必ずバディシステムを守るようにして下さい。単独潜水は、重大な事故につながる可能性があり、大変危険です。（日本スクーバ協会共通掲載危険事項）

警告

警告事項

●スクーバダイビングを行う際には、必ず良好な健康状態で行って下さい。少しでも、寒気を感じたり、疲れていたり、気分が悪かったりする場合には、絶対に無理を避け、ダイビングを中止して下さい。（日本スクーバ協会共通掲載警告事項）

●スクーバダイビングを行う前には、アルコール類はもちろんのこと、薬品類（特に点鼻薬やかぜ薬等）の摂取を避け、体調の悪い人や持病が必ず事前に医師の診断を受けて下さい。（日本スクーバ協会共通掲載警告事項）

●当製品をご使用になる前に、必ず取扱説明書をよく読み、取扱い方法と危険、警告及び注意事項を完全に理解するようにして下さい。また、ご不明な点がある場合には、販売店にて必ず説明を受けて下さい。

●使用する前には必ず各部を点検して下さい。ストラップの緩み、各部の作動状況、破損等の異常がある場合や、少しでも疑いがある場合には絶対に使用せず、すみやかに販売店にて点検、修理を行って下さい。

●ダイビングマスク、スノーケルは、ご自分では絶対に分解しないで下さい。また、規格外のパーツを取り付けたり、勝手に改造を加えることもおやめ下さい。万一、ご自分で分解したり、改造した場合には、水没、破損の原因となり、重大な事故を招く可能性があります。

●マスクのレンズをコレクティブレンズに交換する際は、必ずお買い上げの販売店に依頼して行って下さい。個人で交換をすると、レンズフレームのはめ込み不良等によってレンズが外れ、重大な事故を招く可能性があります。また、必ずTUSAの純正コレクティブレンズをご使用下さい。

●マスクのレンズには、割れた時に破砕面が鈍角になる強化（テンパード）ガラスを採用して安全を高めていますが、岩場等でマスクを傷つたまま無闇に水中に飛び込んだりすることは大変に危険です。岩に衝突する等してレンズが割れると重大な事故につながる可能性がありますので、飛び込み（ボートダイビングを除く）はもちろん、スクーバダイビングとスキンダイビング、スノーケリング以外の目的には絶対に使用しないで下さい。

注意

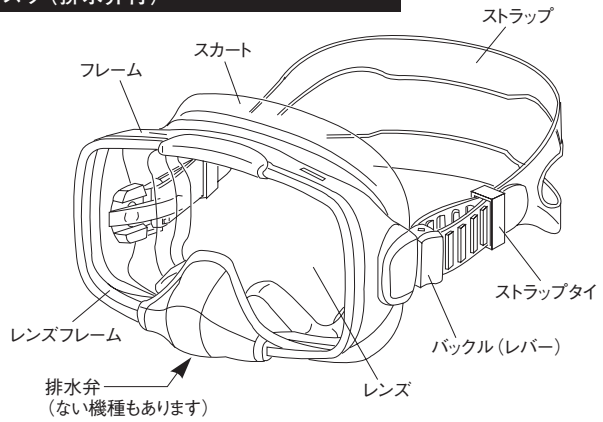
注意事項

●ダイビング機材は、メーカー、品番によって操作方法が異なりますので、なるべく他人に貸さないようにして下さい。もし、貸し出す場合には、必ずこの取扱説明書を添付して下さい。

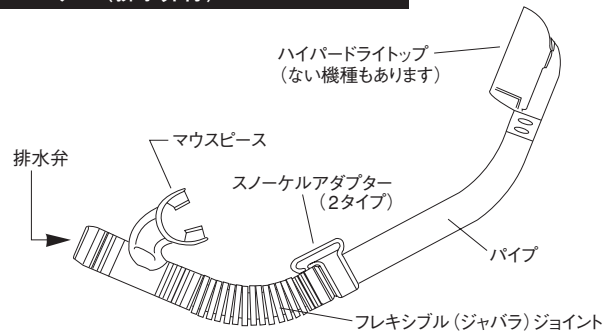
※スクーバダイビングではなく、スキンダイビングやスノーケリングに当製品をご使用される場合でも、警告事項と注意事項は必ずよくお読み下さい。

各部の名称

マスク（排水弁付）



スノーケル（排水弁付）



スノーケルのマスクへの取り付け方

TUSAスノーケルをお持ちのマスクに取り付ける場合は、次のような手順で行って下さい。（TUSAスノーケルのアダプターは2タイプあります。）

必ず顔の左側にスノーケルがくるようにセットして下さい。

通常のアダプターの場合

（写真1）のように、スノーケルアダプターの下部を内側から押し上げながら、マスクのストラップを送り込みます。この時。ストラップがねじれないようにご注意下さい。

取り外すときは、逆の手順で行って下さい。

写真1

スイベルアダプターの場合

❶（写真2）のようにスノーケルを持ち、“カチッ”と音がなるまで矢印の方向に引っ張ります。堅い場合には（写真3）のように持って、指で強く押すようにして下さい。

写真2

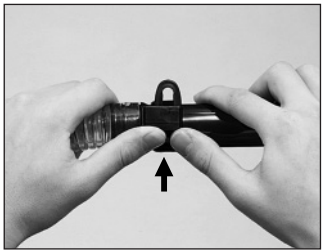
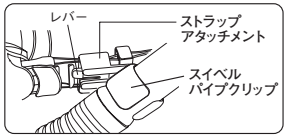


写真3

❷ストラップアタッチメントのレバーを押しながら、ひねるように引いて、スイベルパイプクリップから外します。(写真4)



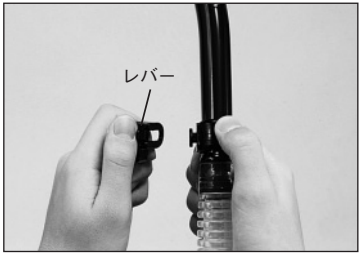


写真4

❸マスクのストラップタイからストラップを引き抜きます。(写真5)

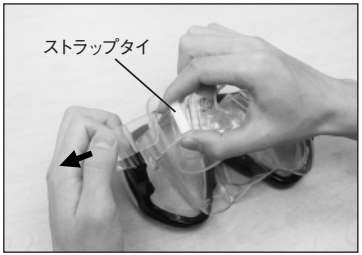


写真5

❹次に、(写真6)のようにマスクのストラップアジャスターのレバーを引きながら、ストラップを抜きます。

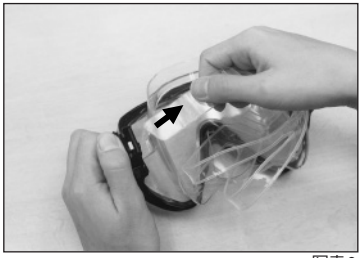
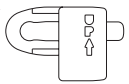


写真6

❺写真の向きにストラップアタッチメントをストラップに通します。(※ストラップの凸部は下向きになります。)(写真7)

NOTE
右のイラストの側が顔側になり、矢印(UP)の方向が上向きになるようにして下さい。
つまり(写真7)のような向きになります。



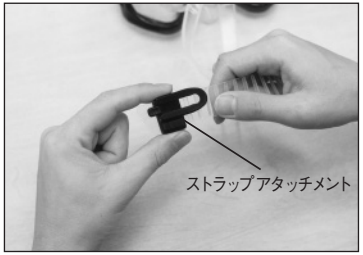


写真7

❻ストラップアジャスターのレバーを引きながら、マスクのストラップアジャスターにストラップを通します。(写真8)

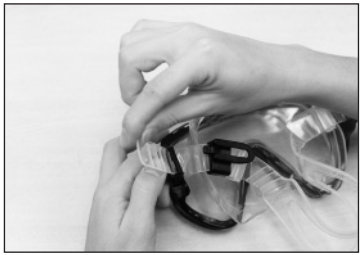


写真8

❼ストラップをストラップアタッチメントに通し戻します。(※ストラップの凸部は上向きになります。)(写真9)

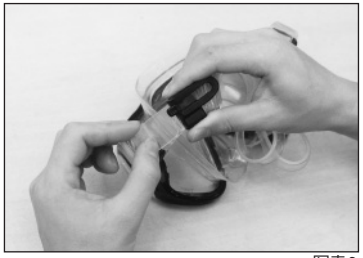


写真9

❽ストラップタイに、凸部が一山だけ超えるところまでストラップを通します。(写真10)

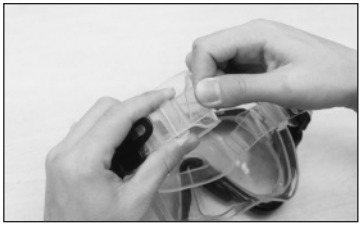


写真10

❾(写真11)のようにストラップアタッチメントのレバーを押しながら、スイベルパイプクリップの突起*1を、ストラップアタッチメントの溝にはめ込んだら完了です。(写真12)

写真11

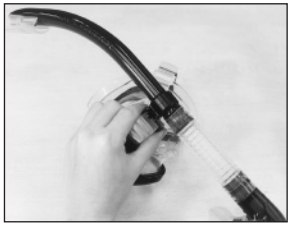


写真12

*1 スイベルパイプクリップに刻印された矢印の方向にはめ込んで下さい。

スイベルアダプター(PAT. P.)の機能

パイプの固定位置がスライドして、前側と後側の2ポジションが選べます。例えば、頭の大きさによって、アダプターと口の距離が近過ぎると、パイプが水面で真直ぐに立たない状態になりますが、従来品では、パイプを後にしたくてもストラップタイが邪魔になる場合がありました。この新しいアダプターは後側(写真13)にスライドさせることによって、水面から出るパイプの先端を最適な位置(写真14)に保ちやすくしています。

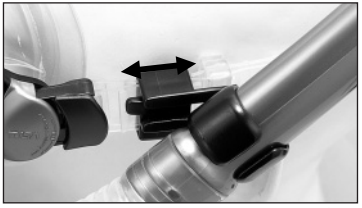


写真13

写真14

ダイビング前のチェック

安全で快適なダイビングを行うために、毎ダイビング前には必ず以下のことをご確認下さい。

写真15

■ストラップをしない状態でマスクをピッタリと顔に合わせ、軽く息を吸ってみて下さい。息を止めている間中、顔に貼り付いている状態であれば、フィッティングに問題はありません。

■スノーケルは、プラスチックパイプ部分に亀裂等の異常がないかどうか、また同様にマウスピースにも穴があいてないかどうか確認して下さい。パーツによっては交換修理が可能なものもあります。

■排水弁付マスク、スノーケルの場合は、それぞれの排水弁がしっかりと取り付いているかどうか、ゴミや砂等の異物を挟んでないかどうかを確認して下さい。もし、異物を挟んでいる場合は、真水で洗い流してからご使用下さい。

マスクのくもり止め

■購入後の新品のマスクのレンズ面には、シリコーンから気化した少量のガスの影響によって油膜が付着してる場合があります。そのまま使用するとくもりが発生しやすいので使用前に中性洗剤を薄めて、マスクのレンズ面を洗浄するようにして下さい。

■洗剤を使用した後は、付着した洗剤成分を完全に流水（真水）で洗い落として下さい。強い洗剤をそのまま用いたり、洗剤成分が付着したままにしておくと、まれにフレーム（プラスチック）部分にクラック（細かいひび割れ）が発生する場合があります。

■また通常は、ダイビングをする前にTUSAくもり止め液（別売り）等をマスクのレンズ内側に塗ることによって、簡単確実にくもりを止めることができます。塗りのムラを抑えるために、塗った後、表面に水をサッと一流しする必要はありますが、プラスチック素材を痛める心配は全くありません。（市販されているくもり止め液の中には非常にプラスチック素材を痛めやすいものがあります。特に目に刺激があるようなくもり止め液にはご注意下さい。）

■くもり止め液がない時には、唾をマスクのレンズ内側に塗ることによって、ある程度のくもり止め効果が得られます。

■ファンデーション等の化粧品、サンオイル、日焼け止めクリームを顔に塗ったままマスクを装着するとくもりの原因となりますので、ご注意下さい。

※弁付きマスクはマスククリアーが初心者でも極めて簡単に出来ます。通常のマスクでは十分な経験と慣れが必要です。

マスクの装着

くもり止めを施したらマスクを装着します。水漏れの原因となりますので、髪や眉毛、髭等をできるだけスカート部分と顔の間にはさみ込まないように注意して下さい。

マスクの着け方

1 スカート部分にはさみ込まないよう、髪を片方の手でかきあげ整えます。

2 マスクを顔につけ、ストラップを後方に一旦引っ張り上げます。

3 ねじれないように注意して、ストラップを後頭部に掛け回します。

4 マスクの位置を変え、髪がスカート部分にはさまっていないかどうかをもう一度確認します。

5 必要に応じて、マスクのストラップの長さを調整して下さい。

ストラップの長さ調整

①ストラップを締めるとき

（写真16）のように、外側のストラップを矢印方向に引っ張って下さい。

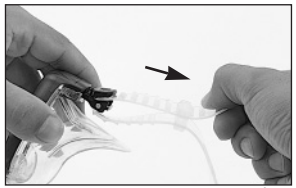


写真16

②ストラップを緩めるとき

（写真17）のように、指先でバックルのレバーを引き起こしながら、内側のストラップを矢印方向に引っ張って下さい。

※写真は説明カットのためマスクを手に持っていますが、顔に装着したままストラップの長さは調整することができます。

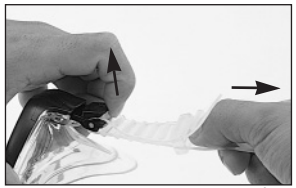


写真17

5段階可変式ストラップアジャスター

M-14、M-15、M-23にはマスクの顔当たりを微妙に調節することが出来る5段階のストラップ角度調整アジャスター（PAT.P.）が付いています。左右のストラップの角度を変えて固定することによって、それぞれのテンションが簡単に微調整できます。それにより、左右はもちろん、今までのマスクでは出来なかった上下のフィッティング感も微妙に変えることが出来ます。

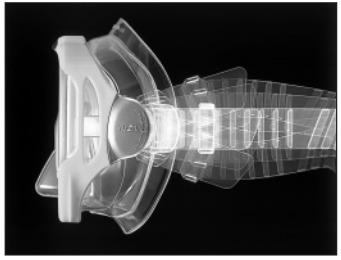


写真18

写真19

エントリー時の注意

TUSAマスクは割れた時に破砕面が鋭角にならない強化（テンバード）ガラスを使用して安全を高めていますが、岩場等でマスクを付けたまま無やみに水中に飛び込んだりすることは大変危険です。岩に衝突する等してレンズが割れると重大な事故につながる可能性がありますので、飛び込み（ボートダイビングを除く）はもちろん、スクーバダイビングとスキンダイビング、スノーケリング以外の目的には使用しないで下さい。

また、ボートダイビング時に、バックロール、ジャイアントスライド、フィートツゥギャザー等の方法でエントリーする場合には、衝撃で飛ばされないよう、必ずマスクを手で押さえて行って下さい。

スクィーズ

水中では、10m潜降する毎に1気圧の割合で水圧が増して行きます。水中の圧力が、体内の空間の圧力よりも高い場合には、水圧がその空間を圧迫します。この時、体の各部に起こる痛みを伴った状態をスクィーズと呼びます。

■スクィーズには、(1)中耳、(2)鼻腔（サイナス）、(3)マスク等の種類がありますが、(1)と(2)は、下記の“耳抜き”によって、(3)はマスク内に鼻から空気を送り込むマスクブローによって解消することができます。

■(3)のマスクスクィーズは、ひどい時は顔や目の血管を痛めたり、マスクの装着跡がしばらく残ってしまう場合がありますので、痛みを感じたらすぐにマスクブローをするようにして下さい。また、水中では圧力がかかりますので、ダイビング前に痛みを感じるほどマスクストラップを強く締めつけておく必要はありません。

圧平衡

スクーバダイバーは、必ず圧平衡をマスターして下さい。マスク、スノーケル、フィンの3点セットでスキンダイビングをする際にも必要となります。

以前のように水中では深く潜れば潜るほど水圧が高まって行きますので、体内の空間の圧力との平衡を保たないと、激しい痛みをともなうスクィーズが生じます。特に、耳の鼓膜付近、鼻の奥に痛みを伴うスクィーズは、次ページの方法による“耳抜き”を行うことによってその都度必ず解消して下さい。

基本的な耳抜きの方法

■(写真20)のように鼻をつまみ、くちを閉じた状態で、息を吐き出すつもりで耳の方へゆっくりと送り込むと、鼻から空気が抜ける感じがします。この状態を“耳抜き”と言います。“耳抜き”ができると、内圧と水圧の平衡が保たれ、痛みが解消されます。

写真20

■うまく“耳抜き”を行うには、水中と中耳内の圧力差ができるだけ小さいうちに行うことです。
“耳抜き”がスムースにできない時には、少し浮上して再度行って下さい。
その際、片耳だけが抜ける場合には、抜けない方の耳が上になるように頭を傾けるとよいでしょう（写真21）
また、頭から先に潜って行くより、足から先に潜って行く方が一般的に“耳抜き”は行いやすくなります。

写真21

■フードを使用している時に耳抜きがうまくできない場合には、フードの内側に水を入れると、抜けやすくなります。

■次の補助動作を一緒に行うことによって“耳抜き”がより効果的にできます。

★唾を飲み込む。
★下顎を前後左右に動かしたり、舌の付け根を上げ下げする。

人によっては、上記の補助動作だけで“耳抜き”ができます。

万一、“耳抜き”ができないまま、痛みを無視して潜降した場合には、鼓膜が破れて、重大な事故につながる可能性があります。(無理に“耳抜き”を行うのも同様です。)

もし、どうしても“耳抜き”ができない場合には、必ず潜降することを中止して下さい。

リバースブロック

スクィーズとは逆に、水中の圧力が体内の圧力より低い場合に、中耳や鼻腔(サイナス)に痛みをともなう状態をリバースブロックといいます。リバースブロックはスクィーズと異なり、頻繁には起こりませんが、まれに (1)中耳 (2)鼻腔(サイナス) (3)歯、等に起こることがあります。

■もし、浮上中に耳の中が痛むことがあれば、浮上をやめて痛みを感じなくなる深さまでゆっくり戻り、唾を飲み込んだり、下あごを前後左右に動かせば、リバースブロックは解消されるはずです。タンクの残圧が少ない等の理由で、そのまま浮上を続けなければならない時には、できる限りゆっくりと浮上することを心がけてください。浮上の途中で急にリバースブロックが解消されることもあります。

■鼻腔(サイナス)のリバースブロックは、潜降時に十分に圧平衡ができなかったため、うっ血して鼻腔内の空気が排出されづらくなった場合と、点鼻薬を使ったため、潜降時は鼻が通っていたのに、浮上時は薬効が切れて鼻づまりの状態になってしまった場合等に起こる可能性があります。鼻腔のリバースブロックが起こった場合は、そのままできるだけゆっくりと浮上するしか方法がありません。風邪をひいたり、鼻づまりをおこしている状態の時には、ダイビングを行わないで下さい。(P5参照)

■また、歯のリバースブロックが起こった場合も、そのままできるだけゆっくり浮上して、帰宅後に歯科医の治療を受けて下さい。

マスククリアー

水面上ではマスクに水が入ってきても、マスクを顔から持ち上げるだけで、容易に排出することが出来ます。しかし水中では、鼻からマスク内に空気を送り込むことによってマスク内に入った水を排出する“マスククリアー”が必要です。

通常マスクの場合

■通常のマスクでは、マスク底部のスカートの下部から水が流れ出るように、鼻からマスク内に空気を連続して送り込んでいる間は（写真22）のように頭を後ろに傾けます。

■強く一気に空気を送り込むと、水がうまく排出されませんので、ゆっくり一定のリズムで息を送り込んで下さい。

写真22

排水弁付マスクの場合

排水弁付マスクは、通常のマスクに比べて極めて簡単にマスククリアーを行うことが可能です。

排水弁付きマスクは、通常のダイビングポジションの姿勢のままでもマスククリアーが簡単に行えます。また、水中でマスクのレンズがくもった場合などでも、レンズ面に少し水を流し込むことによって楽にくもりを解消することができます。

［鼻下弁タイプ］

■TM-8000Q、TM-5800Qは、排水弁がレンズ中央下（鼻の穴の下）あたりにあるため、通常のマスクとは逆に頭を少し前に傾けて、鼻からゆっくり一定のリズムで息を送りこんで下さい。

※TM-8000Qは、レギュレーターのセカンドステージの径が大きいと、“耳抜き”を行う時の鼻つまみの動作が行いづらい場合があります。その際には、右図のように両手の人差指で両脇から鼻を押さえるようにすると、鼻つまみの動作がしやすくなります。（図1）

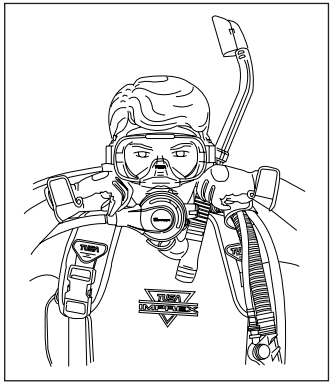


図1

［片側弁タイプ］

M-21は、排水弁が左側に付いています。マスククリアーの際には、頭を少し左側に傾けると排水しやすくなります。

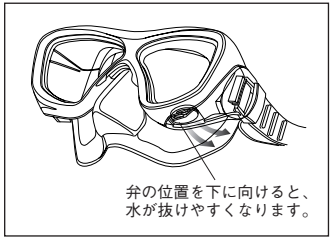


図2

ダイビングの際にマスク内に水が侵入する主な原因は、毛髪をマスクのスカートにはさみ込んでしまうことによるものです。マスクを装着する際には、毛髪がスカートにはさまっていないかどうかを十分に確認してください。

スノーケルクリアー

スキンダイビング時にスノーケルをくわえたまま水中に潜った時はもちろん、水面で使用している時に波をかぶったり、先端が水面下に沈んだ場合等には、スノーケルのパイプ内に入った水を排出しなければなりません。これをスノーケルクリアといい、一般的にはブラスト法を用います。

ブラスト(吹き出し)法

1 水面で、あるいは水中から水面に浮上した際に、短く息を“フッ”とスノーケル内に吹き出すことによって、スノーケル内に残った水を吹き飛ばしてしまう方法です。(図3)

2 スノーケルクリアをした後は、スノーケル内にまだ水が残っている可能性がありますので、ゆっくりと注意深く呼吸をして下さい。水が残っている場合には、もう一度ブラスト法を行って下さい。

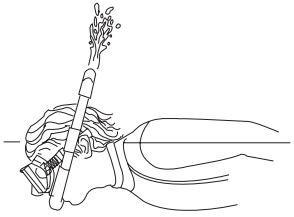


図3

ディスプレイメント(置換)法

■もう一つの方法はディスプレイメント（置換）法というスノーケルクリアーの方法です。
ディスプレイメント法は、特にスキンダイビングの時には有効な方法ですが、マスターするには安全な水域での練習が必要です。
詳しくは各団体のテキストブックを読んで下さい。

なお、ディスプレイメント法は、排水弁付きスノーケルの場合には、構造上適しません。

ハイパードライ構造

TUSAのハイパードライスノーケルは、スノーケルパイプの傾きと、水の表面張力を利用して、被った波しぶきがパイプ本体に侵入しないようにした画期的な製品です。

■(図4)のように、被った波しぶきはエスケープパイプのを通して排水されますので、多少の水しぶきでは水を飲むことなく、スノーケリングを行うことができます。

但し機構上、スノーケルトップが完全に水没するような大きな波を被った時には、パイプ本体内に水が侵入する可能性がありますので、十分ご注意下さい。スノーケル内に入った水は、P21のブラスト法で排出して下さい。

図4

日常の点検と保管

ダイビング終了直後

機材を出来るかぎり長持ちさせるために、また、次回に安全で快適なダイビングを楽しむためにも、ダイビング終了後は、できるだけ早く真水にて水洗いを行って下さい。

帰宅後

❶帰宅後は、風呂場などで、もう一度よく水洗いをして下さい。浴風槽がある場合は、スノーケルとマスクを一晩程きれいな水の中に浸して、完全に塩抜きしてから、水洗いをして下さい。

❷水洗い後は、乾いた布等で全体的に水分を拭き取り、直射日光を避けて、風通しの良いところで陰干しをして下さい。

❸十分に乾燥させた後、変型防止のためにも、マスクは購入時に付属しているケースに入れて、なるべく暗所に（少なくとも直射日光を避けて）保管して下さい。

※保管する際には、重いものを直接上から載せたりする等、特にマスクのスカート、スノーケルのマウスピースに負荷がかからないようにご注意下さい。変形が起こる可能性があり、水漏れの原因となる場合があります。

その他の注意事項

■直射日光や、炎天下の車内やトランク等の、極端に熱い場所に機材を放置しないで下さい。熱や紫外線の影響によって、破損したり、素材寿命が縮まったりすることがあります。

■シリコーンは素材の特質上、経年変化によって黄変色して行きます。従って、使用して行くうちにマスクのスカート、スノーケルのマウスピース部分が黄（茶）色に変色して透明度が失われることがあります。品質的には問題ありませんので、そのままご使用下さい。

■また、他の色物（ウエットスーツ、ゴムフィン、水着等）と一緒に保管すると、色がシリコーン部分に移行することがありますので、マスクやスノーケルを保管したり、移動する際には、ケースに入れる等、色物から離すようにして下さい。

■特にボートダイビング等の際には、マスクやスノーケルをデッキ上に放置して、足で踏んだりすることのないようご注意下さい。スノーケルのパイプや、マスクのフレーム、バックル類が破損する場合があります。

■マスクやスノーケルの各部に付着した汚れが気になる場合は、市販の中性洗剤をメーカー指定の希釈率（洗剤の裏面の説明に表示）にうすめて入れた水で洗い、その後洗剤成分を流水で完全に洗い落として下さい。強い洗剤をそのまま用いたり、つけ置き洗いをしたり、洗剤成分が少しでも残っていると、洗剤の種類によってはプラスチック素材を侵してひびわれ等を起こさせるものがあります。

素材品質表示

ダイビングマスク、スノーケル主要パーツの素材名と、その素材を採用した理由は以下の通りです。

マスク

主要パーツ名	素材名	素材の特徴及び採用理由
スイベルアジャスターベース ノーズパーツ フレーム本体 センターパーツ ノーズカバー インナーフレーム ストラップアジャスター ストラップアジャスターカバー	ポリカーボネート	剛性が大きく、耐衝撃性、引っ張り強度が大きい。 クリープ特性に優れる。
ストラップタイ	ブタジエン・スチレン樹脂	耐オゾン性、耐ストレス性、耐クラッキング性に優れる。
レンズ	強化ガラス T4	耐衝撃性が高い。 万一、破壊した時の破砕面が鋭角にならない。
フロント&サイドレンズ	強化ガラス T3.2	
スカート エグゾースバルブ ストラップ	シリコーンゴム	耐熱性、耐寒性、耐水性、離型性に大変優れる。
レンズフレーム ガラスリテイニングフレーム	ポリアミド	耐磨耗性、自己潤滑油に優れ、引っ張り及び曲げ強度が大きい。
スクリュー ピン ノーズパーツ	ステンレス	耐食性に優れる。
バックル ストラップアジャスター アジャスタースプリング クリックストップスプリング	ポリアセタール	耐磨耗性に優れる。機械的強度、繰り返し強度が大きい。

スノーケル

主要パーツ名	素材名	素材の特徴及び採用理由
ドライストリーマー クリアトップ スイベルジョイント バルブリテイナー バルブキャップ	ポリカーボネート	剛性が大きく、耐衝撃性、引っ張り強度が大きい。 クリープ特性に優れる。
パイプ	ポリウレタン	強度が強く、耐油性、耐溶剤性に優れる。
アダプター	ポリアミド	耐磨耗、自己潤滑性に優れ、引っ張り及び曲げ強度が大きい。
アダプター	ポリアセタール	耐磨耗性に優れる。機械的強度、繰り返し強度が大きい。
ジョイント	熱可塑性エラストマー	柔軟性に富む
マウスピース エグゾーストバルブ フレキシブルジョイント	シリコーンゴム	耐熱性、耐寒性、耐水性、離型性に大変優れる。
バルブキャップ	ポリアミド	耐磨耗、自己潤滑性に優れ、引っ張り及び曲げ強度が大きい。
チャンバー	硬質部＝ポリカーボネート 軟質部＝熱可塑性エラストマー	耐疲労性が高く、繰り返し強度が大きい。

製品仕様

マスク

品　番	フレーム寸法（mm） （タテ×ヨコ）	ラバースカート寸法（mm） （タテ×ヨコ×奥行）	ストラップ長（mm）	重量（g）
TM-5300Q	77×175	101.0×122×84.5	550	224
TM-5800Q	77×175	101.0×122×84.5	550	224
TM-7500Q	71×167	111.4×126×85	560	180
TM-8000Q	97×178	104.5×122×78	550	280
M-14	110.5×183.4	129.5×126×85.5	520	276
M-15	94.3×175	120　×128×75	510	232
M-20 / M-20J	74.5×171.2	107.7×124×85.5	560	180
M-21	75　×172.4	109.2×124×84.7	520	225
M-23	87.4×174.8	111.8×124×85.5	560	202
M-30	82　×176.5	107.5×126×85	520	245
M-40	72.2×169.2	107.7×126×84.5	520	160

スノーケル

品　番	マウスピース寸法（mm） （タテ×ヨコ）	内容積（cc）	重量（g）
SP-451	28×40	140	152
SP-461	30×54	145	156
SP-580Q	30×44	130	160
SP-130	30×50	155	167
SP-170	30×50	150	155